

眼刺激

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

組成及び成分情報

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
ペトロラタム	8009-03-8	9-1692	60-100
ダイヤモンド	7782-42-5	-	5-30
その他	-	-	1-20

4 応急措置

ばく露経路による応急措置

吸入した場合

呼吸の症状が生じた場合は、ばく露源から被災者を新鮮な空気のある場所へ移す。直ちに医師の診断を受ける。呼吸していない場合は、人工呼吸を行う。呼吸が困難な場合は、可能であれば酸素を与える。

皮膚に付着した場合

汚染された衣服および靴を脱がせる。付着した部分を石けんと水で洗う。症状が持続する場合は医師の診断を受ける。溶融した物質と接触した場合、冷水で皮膚に残る物質を洗い流す。直ちに医師の診察を受ける。

眼に入った場合

ばく露により刺激や発赤が生じた場合は、少なくとも15分間、きれいな水で洗浄する。症状が持続する場合は、医師の診断を受ける。加熱した物質と接触した場合、まぶたを開き、冷水で眼を洗い流す。直ちに医師の診察を受ける。

飲み込んだ場合

直ちに医師の診断を受ける。医師の指示がない限り、嘔吐させない。大量の水またはミルクを与える。

予想される急性症状

眼に入った場合：中程度から重度の刺激を引き起こし、結膜の赤み、腫れが見られることがある。

皮膚に触れた場合：赤みやかゆみなどの刺激を引き起こすことがある。

吸入：蒸気やミストが鼻や喉を刺激することがある。

長期間吸入するとめまいの恐れがある。

飲み込んだ場合：胃腸の刺激を引き起こす可能性がある。吐き気や嘔吐があらわれることがある。

遅発性症状の最も重要な徴候症状

皮膚、眼、肝臓、腎臓の障害がある場合、影響を受けやすい可能性がある。

応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

情報なし

5 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素を使用する。

使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

特有の危険有害性

火災に関連する有毒な熱分解生成物が発生する可能性がある。

特有の消火方法

火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。

延焼の恐れのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物等の冷却をする。

冷却目的で使用する水で燃焼する液体を広げない。

消火活動は風上から行う。

直ちに危険区域を隔離し、火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。

危険でなければ、漏れを止め、火災区域から容器を移動する。

発泡の原因となるため、水や泡を熱せられた製品に流れ込まないようにする。

消火剤を下水道、水路に流出させない。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服（耐熱性）、フルフェイスの自給式呼吸器（SCBA）を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は適切な保護具（「8 ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

危険でなければ漏れを止める。

少量の場合、区域を隔離し、漏出区域を換気する。パーミキュライト、吸収性不燃性材料などで流出物を吸収する。飛散しないように注意しながら、多量の水で洗う。

大量の場合、区域を隔離し、漏出区域を換気する。蒸気の吸入や皮膚、眼への接触を避けるために保護具を着用する。液体を盛土等で囲って流出を防止する。下水や水路に放出させない。

こぼれた液体を非反応性吸収剤で吸収させる。適切な廃棄容器に移し、法規制に従い処分する。

滑り易いので漏出した場所を完全に洗い流す。

この製品の環境への放出は避けること。

この製品は可燃性であるが、容易には発火しない。すべての発火源を取除き、防爆型電気機器の使用を推奨する。

風上/風上から離れ、流出/漏出を知らせ、直ちに危険区域を隔離し、許可を受けていない要員を避難させる。

必要に応じて適切な保護具（呼吸器用保護具を含む）を着用する。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

安全取扱注意事項

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。

容器を接地すること、アースをとること。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

工業用潤滑剤および原材料に予期しないアレルギー反応を示す可能性があることに注意する。

接触回避

混触禁止物質

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

作業場では絶対に飲食や喫煙をしない。

保管

技術的対策

保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

混触禁止物質

強酸化剤、強酸、強塩基

保管条件

十分に換気された、排水のよい冷暗所で高温物、熱、直射日光、可燃物、反応性物質から離して保管する。

容器を損傷させないこと。製品は凍結させないこと。

容器包装材料

ラベルのない容器に保管しない。認可された容器のみを使用する。

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない。

許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）

ACGIH TLV

設定されていない。

日本産業衛生学会

設定されていない。

設備対策

一般的な換気が十分である通常の使用条件下では、局所換気は必要ない。換気および他のばく露防止設備は、化学的なばく露を制御するために好ましい。作業場には緊急時の洗眼器、安全

シャワー、洗濯設備を用意する。

保護具

呼吸用保護具	蒸気、ミスト中での使用を避ける。一般的な換気が適切である通常の使用条件下では、呼吸器保護具は必要ない。必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。高温で使用する場合、蒸気が放出されることが予想される場所では、特別な局所換気を行うこと。
手の保護具	皮膚接触を避ける。化学保護手袋を着用する。
眼の保護具	眼の接触を避ける。安全眼鏡または化学ゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	使用条件によっては、フェイスシールド、エプロンなどの追加保護具が必要な場合がある。

9 物理的及び化学的性質

外観（物理化学的状態、形状、色など）	ペースト状。イエロー、オレンジ、グリーン、ブルー、レッド、ブラウンブラック色の製品あり。
臭い	明確な臭気なし
臭いの閾値	情報なし
pH	情報なし
融点・凝固点	49～60°C
沸点、初留点及び沸騰範囲	360～732°C
引火点	>204°C（開放式）
蒸発速度	情報なし
燃焼性	情報なし
燃焼範囲の上限・下限	情報なし
蒸気圧	情報なし
蒸気密度	>1
比重	0.815～0.855（60°C）
溶解度	水：溶解しない 有機溶剤：可溶
<i>n</i> -オクタノール／水分配係数	情報なし
自然発火温度	情報なし
分解温度	情報なし
粘度	情報なし

10 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	通常の手扱い条件下では安定である。密閉容器中、室温では安定。
危険有害反応可能性	通常の手扱い条件下では危険有害反応を起こさない。
避けるべき条件	熱源、混触危険物質。
混触危険物質	強酸化剤、強酸、強塩基
危険有害な分解生成物	燃焼中に二酸化炭素、一酸化炭素および未確認の有機化合物が発生することがある。

11 有害性情報

製品の有害性情報

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 眼刺激性、不快な刺激。
 眼刺激性
 特定標的臓器毒性（単回ばく露） 頭痛、吐き気、鼻や喉への刺激

成分の有害性情報

ペトロラタム

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 ウサギの試験で軽度の刺激性がある。
 眼刺激性

12 環境影響情報**製品の環境影響情報**

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	生分解性あり
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

成分の環境影響情報

情報なし

13 廃棄上の注意**残余廃棄物**

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。
 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

適切な溶剤または水で3回すすぎ、リサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14 輸送上の注意**国際規制**

陸上輸送（ADR/RIDの規定に従う）

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

海上輸送（IMOの規定に従う）

国連番号	該当しない
品名	該当しない

国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
IBC コード	該当しない
航空輸送（ICAO/IATA の規定に従う）	
国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

国内規制

陸上規制情報	消防法に従う
海上規制情報	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
航空規制情報	該当しない

緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号

該当しない

特別の安全対策：

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15 適用法令

消防法	指定可燃物、可燃性固体類（指定数量 3,000kg）
-----	----------------------------

16 その他の情報

参考文献

NITE GHS 分類結果一覧（2018）

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2012 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。